

令和6年度 小中一貫校南アルプス市立白根百田小学校 学校関係者評価書

【学校関係者評価委員会】

1 日 時 令和7年1月30日(木) 午後4時00分～5時00分

2 場 所 白根百田小学校 図書室

3 参加者

(1) 学校関係者評価委員

| No. | 氏名 | 役職等 | 備考 |
|-----|--------|------------------|--------------|
| 1 | 加賀爪 宏美 | 百々地区会長 教育振興会会長 | 学校評議員 地域住民代表 |
| 2 | 佐藤 雅彦 | 上八田地区会長 教育振興会副会長 | 学校評議員 地域住民代表 |
| 3 | 佐野 邦男 | 百々地区副会長 教育振興会副会長 | 学校評議員 地域住民代表 |
| 4 | 戸澤 聡 | 教育関係有識者 元白根東小学校長 | 学校評議員 |
| 5 | 小野 武 | 上八田地区 育成会会長 | 学校評議員 |
| 6 | 福井 健司 | 主任児童委員 | 学校評議員 |
| 7 | 小野 友樹 | 白根百田小学校 PTA 会長 | 学校評議員 保護者 |
| 8 | 望月 萌子 | 白根百田小学校 PTA 副会長 | 学校評議員 保護者 |

(2) 学校職員

| No. | 氏名 | 職名 | 担当 |
|-----|--------|------|--------|
| 1 | 横山 啓二 | 校 長 | 学校評価総括 |
| 2 | 村田 真由美 | 教 頭 | 学校評価全般 |
| 3 | 三枝 秀明 | 教務主任 | |

4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する児童アンケートの状況
- (3) 学校生活における保護者アンケートの状況
- (4) 白根百田小自己評価書(アンケートの分析及び改善方策について)

5 協議内容・意見

○白根百田小自己評価書に対する考察

(教職員・児童・保護者アンケートの考察/改善方策に対する検証)

(1) 白根御勅使中学校区小中一貫教育(1～3)について

→令和7年度より本校は、白根御勅使中学校区にてコミュニティー・スクール(学校運営協議会制度)がスタートします。

(2) 学校教育目標、経営方針・学校運営（4～10）

○児童アンケート⑩「いえのひとと、さいがいがおこったときのことを、はなしていますか？」について、保護者の方からも否定的な回答が多くある。「自分の命は自分で守る」という一番大切なことを、今一度確認する必要がある。学校のホームページで防災に関する情報を発信したり、防災意識を高めるための取組を行ったりすることが重要だと思う。

→学校での取組として、防災に関する授業、避難訓練、防災に関する情報発信にて、防災意識を高めていきます。

(3) 学級経営・学習指導（11～14）

○授業を参観した際、ICTを活用している場面をいくつもの学級で拝見した。端末に向かったり、友達と関わったりする時間があり、忙しそうにも見受けられた。子供たちの「書く力」や「想像力」の低下が危惧される。ICT機器は、あくまでも手段であり、目的を絞った活用が重要であると考えられる。また、教職員の授業準備における負担増も懸念される。教育活動のスリム化も視野に入れ、より効率的で質の高い教育を目指していただきたい。

→児童の「書く力」や「想像力」の低下については、ICT機器の活用と並行して、書く活動も重視しています。例えば、ノートや作文、読書感想文など、児童がじっくりと文章を書き、思考を深める機会を積極的に設けています。読む力も大切にしています。また、教職員の授業準備における負担増については、ICT機器の導入による業務効率化と、従来型の業務の見直しを並行して進めています。具体的には、会議資料のペーパーレス化や、アプリの導入など、教職員の負担軽減につながる取組を推進しています。

○今の授業指導でのICT活用の具体的な良し悪しを聴きたい。

→ICT機器の導入は、児童の主體的な学びを促し、個別最適な学びを実現する上で有効な手段と成り得ます。さらに、例えば、図工の授業において、作品を共有したり、考えを交流したりする際に、効率性や利便性を高めることもできます。しかし、その一方で、目の前に会話ができる仲間がいるにもかかわらず、タブレットの画面越しに对话をするという状況も見受けられます。児童同士が直接顔を合わせ、言葉や表情、身振り手振りを通してコミュニケーションを図ることは、豊かな人間関係を育む上で非常に重要です。ICT機器の活用は、あくまでも教育活動の一環として捉え、その利用と児童同士の直接的な交流とのバランスを保つことを軸として推進してまいります。

○今どきの学習にはICT機器は必需品であると思う。子供たちの方が先行して積極的に機器を利用してよいと思う。

○ICTを小学校でどこまで使えるようになればよいか、担任の先生によってレベルが違うのか、と思っていたが、ICTがすべてではないと感じた。

→教職員の間でも、ICTの効果的な活用方法を模索している状況です。ICT活用に苦手意識を持つ教職員もあり、ハードルが高いと感じられます。そこで、児童にとって効果的な学びとなるよう、情報主任や若手教員を要として研修を進めています。

○授業アンケート④「じゅぎょうちゅうに、しつもんやいけんをよくいいますか？」について、児童と保護者からの肯定的な回答が低い結果となっていた。この数値だけを見て、児童の積極性や授業中の雰囲気判断することは適切ではない。なかには、発言することに抵抗を感じる児童もいることを理解しておく必要がある。自己肯定感や自己有用感、発言の頻度だけで測れるものではない。児童一人ひとりの個性や学習スタイルを尊重し、多様な学びを支援することが重要である。先生方はこの結果を真摯に受け止めながらも、自信をもって授業を進めていただきたい。

○授業アンケート④「じゅぎょうちゅうに、しつもんやいけんをよくいいますか？」について、挙手

による発言は少ないものの、授業中のつぶやき（発言）は活発に行われていると思う。現在の質問項目では、挙手による発言のみを評価しているため、つぶやき（発言）を十分に把握できていない。

→貴重な御意見、激励。本当にありがとうございます。

○着衣泳の指導があるのがとてもよい。スキー教室は復活してほしい気持ちもある。

→多くの学校では、行事の精選によりスキー教室が廃止されています。物価高騰に加え、スキー教室は保護者負担が大きいため、安易に実施できる状況ではないことを御理解ください。

(4) 児童理解・生徒指導 (15~17)

○児童アンケート⑭「はやねはやおきをして、あさごはんをたべて、がっこうにきますか？」について27件の否定的な回答があり、朝食を摂らずに登校している児童がいる可能性が懸念される。

→一文の中に複数の項目があり、回答者はどの項目にあてはまるのか混乱してしまったと思います。朝食を取らない児童の現状を正確に把握するためにも、質問内容を分割し、事実を明白にしていきます。

○教職員への質問項目は多岐にわたるものの焦点が絞られておらず、児童・保護者アンケートとの関連性も不明確である。いじめ問題や学習意欲など、本校の弱みを明確に把握し、次の目標を定めることが重要である。

→教職員への質問項目を見直し、学校の課題をより明確に把握し、効果的な対策を講じていきます。

○あいさつについての項目で、児童の肯定的回答より保護者の肯定的回答が10%以上低いものの、地域においては、子供たちが非常によくあいさつをしていると感じており、大変感心している。

→児童会の取組や全校集会を通じて、挨拶の大切さを啓発しています。毎日あいさつ運動を実施し、あいさつが自然に行われるよう、学校全体で力を入れて取り組んでいます。また、地域の方々の定期的な朝のあいさつ運動も奏功していると感じます。学校と地域が一体となって挨拶運動を盛り上げている状況です。今後も継続的な取り組みを通して、児童が誰に対しても気持ちのよいあいさつを交わせるよう、学校全体で支援していきます。

○自転車の乗り方マナーが大変気になる。近隣の学校でも実施している交通安全教室（スタントマンによる指導等）を取り入れたらどうか。特に注意散漫な低学年児童には必要な指導であると思う。

→本校では交通課の協力を得て、自転車の乗り方指導を実施しています。今後の交通安全指導において、交通事故防止に向けた内容を充実させ、低学年児童への指導にも重点を置くよう、検討していきます。

○SNSによるトラブルが気になる。

→南アルプス市では、Chromebook 端末を利用した児童・生徒間のやり取りについて、メールパトロールを実施しています。また、情報教育にも力を入れており、学校で適切な情報モラルや情報リテラシーに関する指導を行っています。

○自己評価⑰「いじめ・不登校・問題行動の未然防止に努めるとともに、万が一の場合では、見逃さず適切に対処している」について、肯定的回答が100%であるが、B評価が52%にとどまり、A評価に至らないことが気になる。

→生徒指導における迅速かつ適切な対応力を向上させることが求められます。生徒指導の多様化が急速に進む現代において、予期せぬ問題や状況に的確に対応するために、生徒指導に関する知識やスキルを体系的に習得するとともに、関係機関との連携を強化し、チーム百田小として専

門性と実践力を高め、自信をもって100%A評価と回答できるよう、日々精進していく所存です。
○教室の掲示物から、それぞれの担任の先生方の想いが伝わってくる。

○児童アンケート⑫「こまったときに、せんせいは、はなしをきいたり、きちんとたいおうしてくれたりしますか」、⑬「せんせいは、がんばったことを、みとめてくれますか」の回答における高い肯定的評価は、先生方の努力が実を結んでいる証拠だと思う。様々な子供や家庭への対応や授業準備等、本当に多忙な中、無理をせず教育活動に従事していただきたい。

→応援ありがとうございます。学校教育が保護者や地域社会との連携を強化し、ともに子供たちの成長を支えながら学校教育目標である「ふるさとを愛し、夢を育む、賢く優しくたくましい子ども」の育成を目指したいと考えています。

(5) 保護者・地域連携 (18)

○保護者アンケート⑱「お子さんは地域の行事に参加するなど、地域の人との交流をしている」について約30%の保護者が否定的回答をしている。自治会による活動への参加を促し、地域との交流を促進したいと考えている。しかしながら、子供たちの多忙化や保護者の消極的な姿勢も見受けられる現状があると感じる。

→学校行事との連携も図り、子供たちの地域活動への参加を促していきたいと思います。

(6) その他として

心身ともに健康でなければ、子どもたちの教育はできません。管理職は職員の健康状態や勤務状態に気を配り、教職員が健康に働くことができる職場づくりに努めます。教師のウェルビーイングを大切にすることで、子どもたちのウェルビーイングも高まっていくと考えます。